

100号から200号への歩み

手労研事務局長 森 下 一 期

101号以降、ここ200号に行き着くまでに毎月会報を発行することができた。101号は1982年1月号であり、200号は1990年4月号である。8年余にわたって他からの援助を受けず、私たち自身の手で編集、発送を毎月やりぬいてきた。よくやってきたものだと思う。若干発送が遅れたことはあるが、合併号を出したことはない。紙面にしても、記念号等を除き20～22ページをまもってきた。中味を薄くして発行だけの体裁を整えたのではないことがわかる。このことは、常設欄等必ずしも確実に継続されたとは言えない部分はあるが、実践にしても、論文にしても発表すべきものを会内に擁していたことを示している。

つまり、私たちは、毎月発行を200号まで続けることのできる実践・研究を創り出してきたのである。とはいえ、困難がなかったとは言えない。内容的な部分は座談会など他の項に譲り、編集実務、発送実務について振り返ってみよう。よくやってこれたな、と思うのは、実際のところは薄氷を踏む思いをしたことが少なからずあったからである。度重なる原稿の催促にもこたえてもらえず、何度編集委員が泣いたことか。タチカワ印刷さんには迷惑のかけようだった。また、発送実務も容易なことではなかった。宛名ラベルなどパソコンで打ち出すようになったが、袋詰めは剣持さんを中心にやっていた。2人、3人しか集まらないこともしばしばあり、剣持さん1人でやったことさえある。このような苦労談も、機会を改めて会報で紹介したいものである。

なお、会報の誌面については、表紙のレイアウト、色を変えたこと、常設欄に、新しい企画を盛り

込んできたこと、など、読みやすくなるよう努力してきた。

ところで、この間に、私たちが行ってきた具体的な取り組みをまとめておこう。次ページの年表に整理したが、その特徴的なことを見ておこう。

◎ヨーロッパの遊び、手の労働の教育の視察を企画し、2度実施した。工作教育の発祥の地ともされるスウェーデンを訪れ、現在の手の労働の教育の実際を紹介するなど、多くの成果を上げた。それらを冊子にまとめて、活用できるようにした。

◎第2回の「手の働きと意欲の調査」を実施し、10年前と比較できる貴重なデータを得た。遊びや手の労働に対する子どもたちの意欲は決して後退していないこともみることができた。資料集として冊子にまとめるとともに、雑誌などに発表することにより、教育界に一定の影響を与えた。

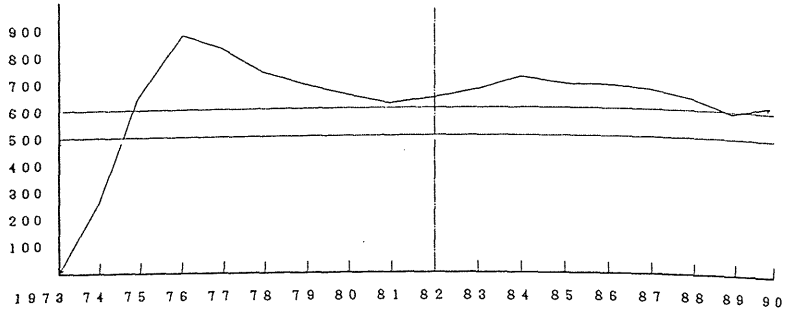
◎研究の遅れていた手の労働の教育の分野における教材集を計4冊発刊することができた。これは、私たちの会が、新たに発掘したり、創り出した教材を豊かにもっていることを示している。特に、公刊はされなかったが教材ブックレットを手づくりで50種類仕上げた力は、誇れるものであろう。

◎1986年は工作教育の前身である手工科が設けられて100年目にあたる年であった。不振に陥っている工作教育を見直し、子どもたちのものとするための取り組みがぜひ必要であると考え、民教連の諸団体と協力し合って、記念集会を催した。それらが基礎となり、工作に関する合同の研究会が継続されている。

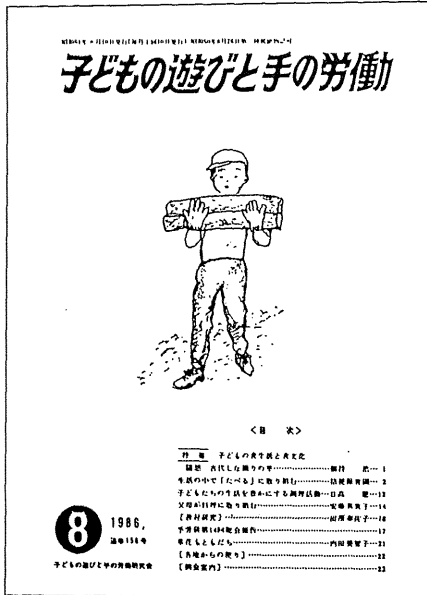
会員数はこの間は横ばい、或は漸減傾向にある。ぜひとも増加させなければならない。

- 1982.1.16 17 委員合宿（手労研の研究・実践の課題についての検討。以降ほぼこの時期に実施している）
- 5.16 17 全国大会中間集会（於：大阪、大会運営準備、基調報告の検討。以降ほぼこの時期に特例を除き、開催地で実施している。）
- 6 西日本集会一岡山、大阪、洲本、石川などの支部、サークルを中心にそれぞれの地域の持回りで年に1回開かれている。
- 1982.8.2～4 第9回全国大会（大阪・池田市）。初日、台風の影響を受け交通機関が混乱したが、740余名の参加で充実した大会となる。
- 1983.8.2～4 第10回全国大会（長野・諏訪）。片倉製糸ゆかりの地、諏訪湖畔で、420余名の参加により実施。
- 1984.3.24～4.5 ヨーロッパの遊び・教育・手の労働の視察旅行実施。イギリス、スウェーデン、フランスを視察（30名参加）。後日、同名の冊子を発行。
- 7 第2回「手の働きと意欲の調査」全国4000名に実施。
- 8.2～4 第11回全国大会（愛知・蒲郡）。人形劇団むすび座、フォークグループ鬼剣舞の協力を得る。550余名参加。
1984. 静岡サークル誕生
- 1985.1 教材集『手をつかおう ものをつくろう』（あすなろ書房）を発売。
- 8.2～4 第12回全国大会（岡山・倉敷）。交流会に「手づくりひろば」を設け、参加者の手づくりへの要望にこたえる。430余名参加。
- 1986.6 『遊ぶ手、つくる手、はたらく手』（ミネルヴァ書房）発刊。
- 8.2～4 第13回全国大会（東京・板橋）。武田鉄矢、丸木政臣教育対談。子ども工作教室も開催。総計1300余名が参加したが、分科会討議の深まりの欠如が問題とされた。
- 8 会報の改善を図る。表紙の色、イラスト。内容構成、連載の検討、改善。
- 11.30 「手しごと・工作教育と子どもの発達を考える会」（工作教育100年記念）を他団体と協力して開催。翌年『コンピュータ時代と子どもの発達』（大月書店）として、その報告を中心に発刊。
- 1987.1.17～18 冬の合宿研究会。分科会討議の充実を目指し、この時期から分科会運営の打ち合わせをすることとなる。
- 4 毎日新聞にコラム「あそぼ」を連載。
- 1987.8.2～4 第14回全国大会（静岡・三保）。参加者は300余名と少数であったが、充実した分科会討議がなされた。
- 12.24～88.1.4 第2回ヨーロッパの子どもの遊びと手の労働の教育を訪ねる研究・視察旅行（A）が実施される（オランダ、西ドイツ、スペイン）。
- 1988.3.25～4.5 同上（B）（イギリス、西ドイツ、スウェーデン）実施。視察報告集『ヨーロッパの遊び・教育・手の労働（Ⅱ）』発刊。
- 8.1～3 第15回全国大会（兵庫・宝塚）。手の労働の教材ブックレットを手づくりで50集発刊し、手労研の力を示す。468名参加。
- 1989.8.5～7 第16回全国大会（東京・板橋）。台風が襲来し、一部日程の変更を余儀なくされたが、充実した大会となった。553名、集い、工作教室183名参加。
- 8 大会を記念して『手づくりひろば』第1集「紙でつくろう、粘土でつくろう」（ミネルヴァ書房）発刊。ブックレットの発展。
- 1990.1 同上2集「織ってつくろう 編んでつくろう」発刊。

会員数の推移



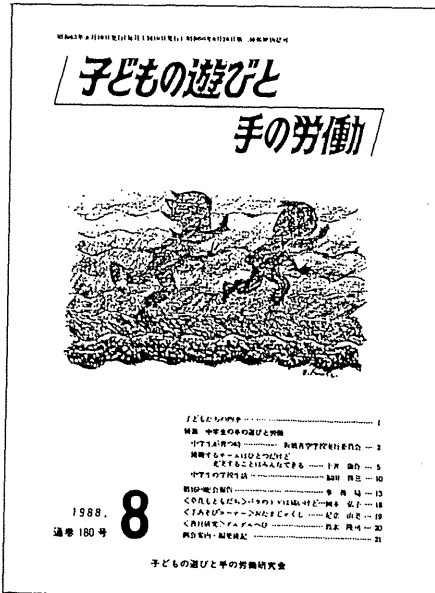
表紙のうつりかわり



イラスト：渡江孝夫<藤色> '86.8~'87.7



版画：古田洋子<クリーム色> '87.8~'88.7



版画：古田洋子<浅黄色> '88.8~'89.7



イラスト：三輪 真<肌色> '89.8~